

「数学トレーニングガイド」正誤表(訂正と補足)

「数学トレーニングガイド」執筆者

ページ	行	誤	正
p.3	表 1.1	$E \ \epsilon, \varepsilon \dots$ エプシロン $\Upsilon \ \upsilon \dots$ イプシロン	$E \ \epsilon, \varepsilon \dots$ イプシロン (エプシロン) $\Upsilon \ \upsilon \dots$ ウプシロン, ユプシロン (イプシロン)*1
p.12	8 行目	かつ “ $x \in A \implies x \in B$ ”	かつ “ $x \in B \implies x \in A$ ”
p.14	12 行目	exsits	exists
p.23	下から 11 行目	$[0, \infty]$	$[0, \infty)$
p.23	下から 10 行目	$[-\infty, \infty]$	$(-\infty, \infty)$
p.26	下から 8 行目	(対象律)	(対称律)
p.27	11 行目	$A \times B \subset C \times D \iff “A \subset C \text{ かつ } B \subset D”$	$A \neq \emptyset \text{ かつ } B \neq \emptyset$ のとき, 「 $A \times B \subset C \times D \iff “A \subset C \text{ かつ } B \subset D”$ 」
p.27	下から 9 行目	二つの集合 A, B に対して,	二つの集合 $A(\neq \emptyset), B(\neq \emptyset)$ に対して,
p.36	10 行目	$(a \neq 0)$	$(a > 0)$
p.38	下から 5 行目	ab と $-2ab$ のように	$3ab$ と $-2ab$ のように
p.39	7 行目	b^2	b^2c
p.51	下から 11 行目	$R(x) = P(x) - G(x)Q(x)$	$R(x) = F(x) - G(x)Q(x)$
p.52	3 行目	SteP 2 へ戻る.	Step 2 へ戻る.
p.52	下から 7 行目	$x^7 - 5x^5 - 6x^3 + x^4 - 2x^2 - 3$	$x^7 - 5x^5 + x^4 - 6x^3 - 2x^2 - 3$
p.54	2 行目	自然数 n よって	自然数 n によって
p.61	6 行目	ラテン語で書いたり,	とラテン語で書いたり,
p.63	13 行目	$x^3 + 3px = q$ は $u^3 - v^3 = q$ と書ける	$x^3 + 3px = 2q$ は $u^3 - v^3 = 2q$ と書ける
p.72	下から 4 行目	足せば a になる	足せば a になる
p.93	11 行目	そもそも $x - \alpha$ よる	そもそも $x - \alpha$ による
p.108	7 行目の数式	$ b_n - b_m = \dots$	$ b_n - b_m \leq \dots$
p.115	下から 5 行目	実際です.	実情です.
p.126	16 行目	という人の整理した体系では	という人の研究に基づく体系では
p.126	下から 11 行目	ゲンツェンの体系の場合	上記のゲンツェンの体系の場合
p.126	下から 7 行目	ゲーデル (K. Ködel)	ゲーデル (K. Gödel)
p.126	下から 1 行目	記号の意味を	論理記号以外の記号の意味を
p.127	下から 18 行目	ゲンツェンによる NK と呼ばれる	参考文献 [6] において NK と呼ばれている
p.127	脚注 11	もともとはドイツ語で Sequenz	もともとはドイツ語で Sequenz. ただし, ゲンツェンが定義した元来の NK は Sequent を用いずに表現されている.
p.139	下から 6 行目	感じているもの	感じているもの
p.140	3 行目	触れてられて	触れられて
p.140	3 行目	ラッセル (B. Russell) をはじめとする	ラッセル (B. Russell) の逆理をはじめとする
p.141	8 行目	学び甲斐いのある	学び甲斐のある
p.143	12 行目	\mathfrak{A} は a を含み \mathfrak{r} を含まない	\mathfrak{A} は a を含み \mathfrak{r} を含まない
p.144	3 行目	sequenet	sequent
p.182	図中	\mathbb{N}	\mathbb{K}
p.187	4 行目	$(a, b) + (c, d) := (a + b, c + d)$	$(a, b) + (c, d) := (a + c, b + d)$
p.191	12, 13 行目	$(a - b)^2$	$(a - c)^2$

*1 数学で用いる際は, ϵ, ε 等は「イプシロン」, υ 等は「ウプシロン」あるいは「ユプシロン」の方が一般的。「英和大辞典」(研究社), 「広辞苑」(岩波書店) 参照.

ページ	行	誤	正
p.199	7行目	$\omega = (-1 + i)/2$	$\omega = (-1 + \sqrt{3}i)/2$
p.205	12行目	2点 $(a, b), (c, d)$ 間の	2点 $(a, b), (c, d)$ 間の
p.212	6行目	a_n を無限小数で表したとします. (小数による表 わし方は, 1 や 3.14 のような循環しない有理数 の場合,	a_n を小数で表したとします. (小数による表わし 方は, 1 や 3.14 のような循環しない, 0 でない有 理数の場合,
p.219	10行目	$\lim_{n \rightarrow \infty} m\left(n, \frac{1}{n}\right)$	$\lim_{n \rightarrow \infty} m\left(x, \frac{1}{n}\right)$
p.229	10行目	$\log y+1 $ $\log x+1 $	$\log y $ $\log x $
p.229	12行目	$e^{x+y}(x+1)(y+1) = C$	$e^{x+y}xy = C$
p.234	1, 7行目	Ricatti	Riccati
p.236	下から4行目	$\frac{du}{dx}$	$\frac{dz}{dx}$
p.253	下から2行目	$= P(A_1)P(A_2 A_1)P(A_3 A_1 \cap A_2) \cdots$	$= P(A_1)P(A_2 A_1)P(A_3 A_1 \cap A_2) \cdots$
p.256	2行目右辺	$P(R_1 \cap R_2) + P(B_1 \cap R_2)$	$P(R_1 \cap R_2) + P(B_1 \cap R_2)$
p.256	下から5行目	また, $P(S) = p, P(S^c) = 1 - p (0 \leq p \leq 1)$	また, $P(S^c) = p, P(S) = 1 - p (0 \leq p \leq 1)$
p.258	7行目	それらの人任意の	それらの任意の
p.264	2行目	いいかえことも	いいかえることも
p.264	10行目	20回中表が	n 回中表が